

みんなの町議会

迎春



目次

- 定例会の経過／年頭のあいさつ…… 2～3
- 臨時会 コロナ対策、灯油券支給を決議…… 5
- 常任委員会の焦点…… 6～7
- 一般質問に8名登壇…… 8～16
- ついせき！あれ なんとになったべが！ … 17
- よぐきてけだな・がんばってます…… 18

No.145

2021年1月1日

新校舎のシンボル、階段教室
学校見学会に参加の皆さん

2021

あけまして

おめでとうございます

森山からの雲海

議会の経過

12月定例会は前回同様に、議席の間仕切り、マスク着用、換気、必要最低限な参与出席、傍聴席のソーシャルディスタンスなど新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応を施し、12月7日から11日まで5日間の日程で開かれた。

初日 渡邊町長は行政報告で「新型コロナウイルス感染症関連の支援事業、職員採用試験、火葬場改修に伴う駐車場新設、緊急通報システムネット119運用開始、12月開設の子育て世代包括支援センター」「すぎのこてらす」「介護保険事業の策定状況、熊の出没状況、観光施設の指定管理、今シーズンの除雪態勢、小学校改築事業、花壇コンクール」などについて述べた。

2日目・3日目 一般質問に8名が登場。母子モの利活用・農地の担い手問題・町長選に向けての姿

勢・サキホコレ栽培の今後・認知症による徘徊と行方不明への対応・新型コロナウイルス感染防止対策・マーレ社の工場閉鎖・もりやまこども園給食無償化などの質問をした。

3日目 令和2年度一般・特別会計補正予算案など議案17件が上程され、各常任委員会で審議した。

最終日 各常任委員長報告のあと、全議案を可決した。また陳情4件を全会一致で採択、委員会提出議案4件を可決し閉会した。

なお、地方自治法第117条の規定により、議案第85号五城館の指定管理者の指定について経営に関わる事案であり、関係議員1名を議案上程・委員会審査・最終日の議決時に^{*}除斥して進めた。

***除斥（じよせき）とは**
審議の公正を期するため、議題になった案件と一定の利害関係にある議員をその審議に参加できないようにすること。

年頭のあいさつ

苦難を乗り越え、明日を拓こう



議長 石川 交三

あけましておめでとうございます。
町民の皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのことと、心からお慶びを申し上げます。

今年の干支は「丑（うし）」。「丑は中国で生まれた漢字で、覚えやすくするために「牛」となりました。「牛」は農業には欠かせない重要な生き物で、昔は各家の入口を入るとすぐに「牛」や「馬」がいたものです。

「丑年」は「我慢して耐える」や「発展の前触れ（芽が出る）」を表す年と言われています。新型コロナウイルスの感染拡大は、これまで積み重ねてきた私たちの生活様式や考え方を一変するものとなりました。耐え忍ばざるを得ないことがまだまだ続きそうですが、その一方で東京一極集中の弊害が指摘され、地方が見直されるという潮流が現れています。田舎暮らしを希望する若者が増えています。過疎化の進行や人口減少を嘆いてばかりでは道は開けません。コロナ禍の後を見据え、身の丈に合った施策展開の中で、各界の担い手育成や移住定住を進め、新たなまちづくりへと繋げる年としたいと思います。

町民各位にとりまして、多幸あふるる年となりますよう祈念し、新春を寿ぎ、年頭のあいさついたします。

今定例会で可決した
主な内容

・選挙運動の公費負担に関する条例制定

・国民健康保険税条例の一部改正

・放課後児童施設設置条例制定

間もなく利用開始
すずむしクラブの新拠点

・水道事業の設置等に関する条例の一部改正

・赤倉山荘・五城館

道の駅悠紀の国五城目・斎場
現在の事業者が引き続き指定管理期間は3年間

・一般会計と特別会計の補正予算

審議した
補正予算の主なもの

●一般寄付金2名の方から
700万円

●財政調整基金
8,776万円

●公共施設等総合管理基金
5,000万円

●除雪事業
4,155万円



交通確保だけでなく、人にやさしい除雪を

●新型コロナウイルス感染症の影響で多くの事業が中止や延期となり事業費の減額補正が相次いだ。

陳情と意見書

12月定例会で4件の陳情を採択し、意見書を各関係機関に提出しました。

採択

◆安全・安心の医療・介護の実現と、国民のいのちと健康を守るため、国に意見書提出を求める陳情

陳情者

秋田県医療労働組合連合会

執行委員長 石川 洋基

意見書提出先

○内閣総理大臣 菅 義偉
○厚生労働大臣 田村 憲久
○財務大臣 麻生 太郎
○総務大臣 武田 良太



地域医療の要、湖東厚生病院の存続を

採択

◆「新型コロナウイルス対策を強化し、安心して介護を継続できるようにするために介護施策の改善を国に求める」意見書提出の陳情

陳情者

秋田県社会保険推進協議会

会長 佐藤 幸美

意見書提出先

○衆議院議長 大島 理森
○参議院議長 山東 昭子
○内閣総理大臣 菅 義偉
○財務大臣 麻生 太郎
○厚生労働大臣 田村 憲久

採択

◆75歳以上医療費窓口負担2割化の中止を求める国への意見書提出の陳情

陳情者

秋田県社会保険推進協議会

会長 佐藤 幸美

意見書提出先

○衆議院議長 大島 理森
○参議院議長 山東 昭子
○内閣総理大臣 菅 義偉
○財務大臣 麻生 太郎
○厚生労働大臣 田村 憲久



国介護施策の抜本的な改善を(特養老人ホーム広青苑)

採択

◆「新型コロナウイルス感染症を教訓に感染症対策を含めた地域医療構想に見直しすること」を国に求める意見書提出の陳情

陳情者

秋田県社会保険推進協議会

会長 佐藤 幸美

意見書提出先

○衆議院議長 大島 理森
○参議院議長 山東 昭子
○内閣総理大臣 菅 義偉
○財務大臣 麻生 太郎
○厚生労働大臣 田村 憲久

請願・陳情の提出方法

町政に対するご意見・ご要望があるときは、誰でも町議会に請願書・陳情書などを提出することができます。提出された陳情書などは、委員会で審査されます。その結果、願意が妥当であると認め、本会議で採択された場合、町や教育委員会などの関係機関に対する措置要求、国や関係行政庁に対する意見書の提出などを行います。

請願書および陳情書を 作成するときの注意点

- ・2つ以上の内容について請願および陳情する場合は、それぞれの内容ごとに分けて作成してください。
- ・請願・陳情事項および陳情・要望理由は、邦文で分かりやすく書いてください。
- ・提出部数は1部です。
- ・受付は議会事務局で随時行っています。
- ・受理後に内容などの確認を行うことがありますので、連絡先と担当者名をご記入ください。

様式など詳しくは町ホームページでご確認願います。
<https://www.town.gojome.akita.jp/seigantinzyou/816smf.html>



(荒川 滋)

新型コロナウイルス感染症 町独自の新たな緊急支援対策

第4回臨時会

令和2年11月20日

全世帯への灯油券1万円分支給を議決



有効活用が望まれる
1万円分の灯油券

提出議案

①物品売買契約の締結について
WEB会議等対応機器整備事業

WEB会議用機器(各地区公民館等9施設分のパソコン、大型ディスプレイ等)、職員用タブレット90台。

指名競争入札の結果700万円(株)日立システムズ東北北支店(秋田市)と契約。

②一般職の給与に関する条例の一部を改正

・人事院勧告を受け、民間との均衡を図るため特別給を引き下げる。

③一般会計補正予算

(新型コロナウイルス感染症対策)
・あったか生活応援事業として全世帯に1万円分の灯油引換券を支給。対象は3,900世帯。事務費を合わせた事業費4,125万円

議会議員全員協議会

第7回

協議事項

新型コロナウイルス感染症対策について

○これまでの緊急支援対策事業

町独自事業

- 臨時子育て世帯応援給付金
対象…805人
- 感染予防対策用マスク支給
対象…全町民
- 感染予防対策用物品等購入
不織布マスク、消毒液、体温検知器
- ひとり親家庭等緊急応援給付金
対象…60件
- すくすくみらい応援特別誕生祝金
新生児に10万円支給
- 中小企業事業継続支援法人に20万円
個人事業者に10万円

- すこやか子育て応援給付金
対象…33件
- 学生等応援給付金
対象…大学生などの保護者133人
- 農林産物加工品等出荷応援支援
対象…159件
- 防災対策事業
避難所用物品購入
- オール五城目応援商品券
全町民に1万円分の商品券発行
- 中小企業経営安定資金利子補給
町内企業者の借入金に対する利子補給
- 健康づくり応援事業
全町民対象にインフルエンザ予防接種無償化
- 救急業務対策
救急業務に必要な物品購入
- 地域図書室整備

国の事業

- 特別定額給付金
町民一人につき10万円支給
- 子育て特別給付金
児童手当受給世帯に児童一人につき
- 学校情報機器整備
児童・生徒一人に一台タブレットPC整備
- 学校保健特別対策
小中学校における感染症対策物品購入

○新たな緊急支援対策事業

- あったか生活応援事業
(上記③を参照下さい。)

五城目小学校新校舎が竣工



壁面に映写できる階段教室

五城目小学校新校舎が完成した。床暖房完備の立派な体育館、バリアフリーにも対応し、姉妹都市である千代田区の江戸切子と、五城目の組子細工が双方並ぶデザインなど、工夫をこらした新校舎になっている。

委員からは、「新校舎となった五城目小学校がこれから目指すものは。」との質疑があり、当局からは「GIGAスクール構想で購入予定のPCを用いて2022年に1日2

介護保険の実績見込みに伴う補正予算について審議した。委員からは「町民による主体的な介護予防が行われているがその効果はあったのか。」と質疑があった。

当局からは「これまでの介護予防の効果はあったと思われる。わずかでも第8期の保

介護予防の効果が表れる

除料を下げることで介護予防を頑張っつてこられた町民の方々に成果をお示しできるのではないかと考えている。」との説明があった。

「町民の頑張りを反映してほしい。」と指摘し、全会一致で可決すべきものとした。



介護予防で健康寿命を伸ばす

(松浦 真)

教育民生 常任委員会

3時間PCを使う授業が行われる。子どもたち一人ひとりに寄り添った新しい学びのスタイルを確立していく。雀館地区には温水プール、広域体育館などがあり、新小学校の竣工を機に地域の人達との交流ができる場所にしていきたい。また、来年からは県外からの教育留学も進めていき、将来的な移住・定住対策にもつなげたい。」との説明がなされた。



役目を終える旧校舎

旧校舎の残存物整理の 分かりやすい告知を

五城目小学校旧校舎の残存物を整理する必要がある。当局からは「まず、役場の各課で必要なものを除き、後は町民の方に協力を金にいただき、お持ち帰りいただくことを検討している。」との説明があった。

委員からは「全町民にわかりやすく伝える必要があるため、十分な周知徹底を。」と指摘した。

厨房箇所も事業支援室に



これからの展開が期待される厨房

地域活性化支援センターの多様な事業ニーズを捉え、一般施設としてのみ利用して来た交流室の厨房箇所を、事業支援室としての利用を可能にする。委員から「利用したい人がいるのか」と質疑があり、当局からは「現在入居中の調理経験者が希望している。設置条例の一部を改正し公募のうえ審査し決定する。」と説明がなされた。新たな地域活性化が望まれる。

自治総合センターによる今年度分の一般コミュニティ事業に追加募集があり、唯一来年度の申請をしていた築地町町内会の前倒し採択が決定した。

築地町では、テント、折りたたみリヤカー、太鼓、掃除機、冷蔵庫などを購入する。助成額は250万円。

一般コミュニティ事業、 追加募集の結果



追加募集により備品が整備される築地町町内会

(畑澤 洋子)

総務産業 常任委員会

町観光拠点3施設の 指定管理者が決まる

来年度からの指定管理者選定案を審議。

これまで同様に赤倉山荘は(株)秋田スパ・アンド・ドライブイン・サービス(旧ダイケン)、五城館は(株)あつたか五城目に決まる。

道の駅(悠紀の国五城目)は2社から申請があり、「販売実績があり、事業計画も達成している。」などの理由から、現在の指定管理者(株)秋田スパ・アンド・ドライブイン・サービス(旧ダイケン)に決まった。



更ににぎわう道の駅に

ICT利活用の目標は

教育長 1日2～3時間
授業でPCを使う

町長 妊産婦45名のうち利用者が18名で約4割にとどまっている。アプリ利活用の促進に努めていきたい。

母子モの 利用状況は

松浦 GIGAスクール構想にともない具体的な目標は。教育長 子どもや学校の実態に応じ、2022年までに1日2～3時間以上は授業で学習用端末を活用することを目標とする。授業単元以外にも、キャリア教育や遠隔地との人的交流等にも活用を図ってきたい。



地域図書室内のPCを活用できる
ワーキングスペース

※「ロボティック・プロセス・オートメーション」略してRPAとは、従来は人の手で行なっていた住民票発行や納税書類の送付などの定型業務を、ロボットに自動処理してもらう仕組みのことです。

RPAの導入は
松浦 職員数や人口が減少する中で、行政が担当すべき社会課題は増え続けている。この状況をサポートするための民間への効率的な業務委託やRPAの導入は検討しているか。
町長 現時点では、RPAを導入するほどの業務量にはないが、今後の押印廃止、電子申請の対応などRPAの導入時期を見定め検討していく。



地域図書室が町民の新しい居場所に

ヤングケアラー の把握を

松浦 15～29歳以下で家族の介護や世話をしている若者は全国で約21万人。五城目町はヤングケアラーの実数は把握しているか。

地域図書室運営
のKPIは
松浦 9月議会でも質問した地域図書室運営に向けたKPI策定はどのようになっているか。
教育長 関係機関から助言をいただいたが、当面の間は貸出冊数や利用者数の数値的目標を定めず、まずは「利用しやすい雰囲気作り」を目指していきたい。

4期16年の 振り返りは

町長 日常生活圏域ニーズ調査では、20歳未満の介護者は0%。ただし、表面化するケースが少ないことから、今後、教師やスクールソーシャルワーカーと連携を図り、実態把握に努める。
松浦 4期16年間の町政運営で、出来たこと、出来なかったことはなにか。次の町長選挙で争点となる政策（マニフェスト）は何か。
町長 若い世代の移住や起業、コミュニティ活動の流れを生み出した。
基幹産業である農林業、働く場の確保、子育て環境の充実など重点課題に向けた施策展開が必要と考えている。
コロナ禍における新しい時代の流れを取り入れ、政策分野にこだわる施策展開ではなく、オール行政で政策を展開できる町政運営を目指している。

あなたにかわって
聞きました

一般質問



松浦 真

一般質問

8議員が登壇 我が町政を問う

一般質問とは？

- ・年4回の定例会において、議員が町政全般について現状や方針を問うものです。
- ・答弁を含む一人当たりの持ち時間は60分で、事前通告制が採用されています。
- ・質問をするかしないかは、議員個人の判断によります。

質問者

松浦 真 議員

- 母子モの利用状況について
- RPA (Robotic Process Automation) の導入について
- ヤングケアラーの把握について
- これまでの質問内容の進捗確認
- これまでの町政運営について

椎名 志保 議員

- 農地の担い手問題について
- 子育て世代包括支援センターの活用と子育て支援の充実について
- 時代をとらえた移住・定住対策を
- デジタル化社会推進への対応について

荒川 滋 議員

- 町政について
- 消防団の円滑で効率的な活動のために
- 町の宝である子供たちが活動しやすい環境づくりを
- キイチゴ産地として定着させるために

佐々木仁茂 議員

- 町長は来年の町長選挙出馬を考えているのか
- 県オリジナル新品種「サキコレ」の栽培の今後について
- 本町の林業政策について
- 森山地区治山事業工事完了後の課題について

畑澤 洋子 議員

- 認知症による徘徊と行方不明。人生の総仕上げにふさわしい安心安全の生活を
- コロナ禍の独居老人の孤独死と自殺ゼロ対策を
- 免許返納後の高齢者を支える全町「無料巡回バス」施行運行を
- 行政手続きにおける押印廃止と書面主義の見直しを

斎藤 晋 議員

- 1985年に制定された町の「木」「花」「鳥」について
- 新型コロナウイルス感染防止対策について
- 町の特産品について
- 朝市について
- これからの町づくりは

石井 光雅 議員

- 町長の5選出馬について
- マーレ社の工場閉鎖について
- コミュニティ生活圏形成事業について
- 教員による児童・生徒へのわいせつ行為について
- 故中曽根元総理の合同葬について

工藤 政彦 議員

- 五城目小学校新校舎の完成について
- もりやまこども園の給食費の全額無償化について
- 朝市振興について
- 町長選挙への出馬について

*誌面の関係上掲載できなかった●印の質問については、町ホームページにて議会映像を配信しておりますのでそちらをご覧ください。

五城目町議会映像配信中 www.gojome-town.stream.jfit.co.jp



意義ある発言機会は大事な 議員活動の場といえます。 議会を傍聴してみませんか？

傍聴の手順をご紹介します。事前連絡は不要です。

①役場4階へ上がります。
(エレベーターを
ご利用ください)



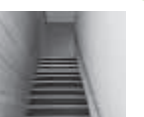
②議会事務局前で受け付け。
(受付表に必要事項を記入)
(手指の消毒剤あります)



④町の方向性を直接聞く
ことができます。
(開会中はお静かに願います)



③階段で傍聴席へ。
(定員40名)



※新型コロナウイルス感染拡大の防止および、傍聴におこし下さる皆様の健康を守る観点から、当分の間、傍聴を自粛いただく場合がございます。 お問い合わせ先 議会事務局 018-852-5411

(工藤 政彦)

町長選挙に 5期目の出馬をするのか

町長 経験を活かし
再び町政運営に挑戦したい

あなたにかわって
聞きました
一般質問



荒川 滋

希望が持てるまちづくりをどう進める

荒川 多選批判や緊張感の低下を懸念する声もあるが、山積する課題・コロナ禍における地方交付税の減少も予想される中、町の良さを再認識し将来に向け希望が持てる方向性とビジョンは。

町長 総合発展計画における各施策の深化を図り、これまで以上に大胆な推進に努めるとともに、地方創生の推進やアフターコロナ対策に加え、『人が輝き、まちが輝き、未来が輝く五城目』を目標に、これまでの取り組みが実を結び大きく輝けるまちづくりを目指す。

農地の担い手対策は急務だ

町長 人材確保と基盤整備促進が必要

あなたにかわって
聞きました
一般質問



椎名 志保

椎名 長年にわたり多くの農地の担い手であった農業者の離農により、新たな担い手を探索しなければならず、農地の所有者はとも困惑している。担い手の高齢化は進み、今後どんなふういった事態となる。地域の農地を引き継いでいくために各地区で農政座談会を行うなど、行政と地域が一緒になって考え、進めていくべきでないか。



農地を守ろう

町長 説明会を実施し、整備の促進に努めていく。県は農地中間管理事業を活用した基盤整備事業を進めていることから、法人化が整備され、担い手の育成が期待される。

椎名 担い手の発掘、育成は急務だ。就農には農地のあり様が大きく関わってくる。安定した経営を目指すためには農地の集約と基盤整備が不可欠だ。予定されている計画は前に進め、話し合いの機会を持てない地域には積極的に入り、道筋をつけることに手を貸すことが必要だ。

「すぎのこてらす」の活用に期待

椎名 子育て世代包括支援センター「すぎのこてらす」が開設された。産後ケア、乳幼児の発育・発達確認、育児相談の充実を図るためには保健師に加え、助産師の採用が必要ではないか。子どもの発達に関する相談窓口、支援を充実し、早めの気づき、早期の対処が大切だ。「すぎのこてらす」が拠点となり、町保健師、こども園保育士、子育て支援センターこどもの木、小学校が連携し、進めるべきだ。

第6次行革推進プログラム具体策は

荒川 「14投票区を8程度に」の想定時期は。

町長 選挙名簿登録者数の減少、期日前投票の定着に投票所での投票者数の減少、従事職員の減少、投票管理者と立会人の確保が困難になってきているため、見直しを調査している段階で時期は未定である。

荒川 町職員自己啓発の具体策は。

町長 能力開発研修、各種講演会やセミナーに参加させ、住民サービスの向上を目指していく。

消防団参集アプリの導入を

荒川 本部から分団幹部に出動指示が出されると、一刻も早い出動の準備を進めながら各団員に指示を伝えている現状。現場周辺の水利位置も分かり円滑な活動につながる消防団参集アプリの導入を。

町長 ICTの役割は今後一



役場1階に開設された「すぎのこてらす」

町長 今年度は保健師が兼務するが、助産師など専門職の採用は今後検討する。「母子保健」と「子育て支援サービス」を一体的に行うため、地域の様々な関係機関とのネットワークを構築し、情報共有や連絡調整など迅速な対応に努めていく。

椎名 病児保育のニーズが高まっている。周辺4町村が協力し合い、小児科が常設されている湖東厚生病院で実施されるよう働きかける考えはないか。

町長 周辺4町村と情報交換しながら検討していく。

時代をとらえた移住・定住対策を

椎名 「リモートワーク」「ワーケーション」が推進さ

層大きくなるものと考えられる。県内外の動向も注視しつつ導入事例を参考に検討する。



安全安心に欠かすことができない消防団

団員不足の対応は

荒川 消防団員は定員205名に対し、基本団員136名、機能別団員38名で依然として定数を下回っている。町の防災力の維持と向上のため、他の自治体の例を参考に町職員に団員として協力してもらうことはできないか。

町長 団員確保のためのPRなど入団促進を図っている。町職員の任意の入団については方法も含め検討する。

キイチゴ生産地として定着を

荒川 一大生産地として売り出されてから12年経過したが現状は。

町長 当初、年間約2tあった生産量は令和元年度に0.7t、出荷額は年間約400万円から昨年度約200万円と減産減収。ほとんどの新しい新規参入へのPRを行ってきたが進展に至っていない。体制強化の助言と支援を推進し生産量確保を目指し、研究会の自立に向け尽力する。



一過性で終わらないように支援を

認知症でも 余生を全うするには

町長 本町にあった見守り体制を検討する



QRコードを活用した見守りシール

煙澤 認知症による徘徊で行方不明になる高齢者が多い。昨年は全国で17479人が不明になり過去最多。発見された人の中で460人が死亡後に発見。死因は交通事故、低体温による衰弱死、河川に転落し溺死するなど。

認知症だから仕方ないと終わっていいのか。同様の事案が町でもあるか。

先進自治体例として「QR

あなたにかわって 聞きました 一般質問



煙澤 洋子
（公明党）

煙澤 免許を返納した高齢者は交通弱者となり、食料の確保、スポーツ、趣味の楽しみが断念されることで、認知機能や身体機能の低下が進む場合がある。

気軽に歩ける移動の整備が大事だ。八峰町では無料巡回バスを試行運行している。予約なしで朝決めても遅く

免許返納後の高齢者を支える全町無料巡回バスの運行を

コードを活用した見守りシール事業」「GPS端末を貸与する事業」などがある。町でも実施してはどうか。徘徊中の高齢者だと気づいた時の、声をかける訓練を、地域や小中高生に実施している自治体もある。皆が声をかける積極性を持ち、更に皆で支え合える町をめざしたい。

町長 徘徊による不明者は平成24年から現在まで7名と把握している。高齢化の進展が進む本町でも活用を検討する必要性を感じるが、本町にあった見守り体制を慎重に見極めたうえで検討する。



好評な無料巡回バス（八峰町）

い。無料なので家計を気にせず外出できる。これまでのアンケート調査からは解りにくい住民の本音を、無料巡回バスの運行で見極めたい。

町長 来年度に既存交通資源を磨きあげ、自家用有償運送など住民主体の公共交通の検討を行う予定。本町の乗合いタクシーは、ドアトゥドア運行で大変ご好評をいただいている。来年度策定する町地域公共交通計画で、住民アンケート調査、行政負担額シミュレーションで総合的に検討する。

コロナ禍の独居老人 孤独死と自殺

煙澤 隣近所の付き合いもなく孤独に誰にも知られることなくこの世を去る高齢者が全国的に増えた。更にコロナ禍で孤独ゆえに、自らこの世を去る人もいる。町での現状は。困ったところに手をさしのべる対応は。

町長 令和元年度、民生児童委員や新聞販売店からの連絡で町職員と警察署員との安否確認では3名が亡くなつてから発見されている。対応として民生児童委員と町内会の協力のもと、訪問活動、相談活動で関係機関への必要なサービスへの接続に努める。「いのち」を大切にし誰も自殺に追い込まれることのないまちづくりを目指している。

貴重な森林資源 町の宝を活かす林業施策を

町長 全国の優良事例を参考にする

あなたにかわって 聞きました 一般質問



佐々木 仁茂

佐々木 本町の森林面積は、土地総面積の82%を占めている。森林資源は町の宝であり、この貴重な資源を地域振興に役立てる施策は重要である。本町での地域活性化の一環として、国有林の活用と林野庁の「林業成長産業化地域創出モデル事業」の誘致に取り組むよう提案する。

町長 「秋田県国有林野等所在市町村有志協議会」において、国有林に対する意見や要望を出すと共に、意見交換による情報の共有を図りながら国有林の活用と連携を検討していく。

モデル事業については、大館市や全国で選定された市町村の優良事例が全国的に普及展開されることから、本町に適した事例を参考にしながら林業行政に役立てていく。



林業施策の要となる森林組合

計画的な再造林の推進を

佐々木 近年は木材価格の低迷と再造林の補助金が安いいため、森林所有者の収穫伐採の実施を困難にしている。森林の機能を十分に発揮し、健全な森林として将来持続可能な資源を維持するためにも、計画的で適切な収獲伐採と再造林は最重要課題である。再造林推進の対応策は。

町長 「再造林対策プロジェクトチーム秋田地域協議会」では、次期再造林対策の保育と経済性や、方向性等を含めた検討をしている。協議会の方策を確認した上で、本町として可能な再造林の推進を図っていく。



あきたこまちに替わるブランド米に期待

五城目森林組合の 合併への対応は

佐々木 五城目森林組合、男鹿森林組合、湖東森林組合の合併協議が進められているが町はどのようなスタンスを取っていくのか。

町長 町としては、五城目森林組合が森林管理の中心的な担い手として更なる発展を実現されることを望むものであり、合併に対する進捗状況を見据えながら、行政として可能な限り支援をしていく。

新品種サキホコレ 栽培の支援策は

佐々木 令和4年から新品種「サキホコレ」が本町に於いても、選定された農家によって、本格的な栽培がスタートする。町は今後ブランド米「サキホコレ」の当町での栽培に、どのような支援と対応をしていくのか。

町長 集荷業者と生産者で組織する生産団体の意見を聞き必要とされる支援策を検討するとともに、湖東管内の動向や単収、米の価格動向を注視しながら対応していく。

森山下地区治山事業 工事後の安全対策を

佐々木 令和元年度から敷設された側溝では、土砂の流入と木々の枝葉の落下による水流の阻害と滞留、側溝沿いの狭い神社の参道、下流の側溝沿いは、スクールバス停までの通学路である。様々な危険が潜んでいる現状にどのように対応するのか。

町長 町内会・神社の関係者と協議をし、危険箇所の点検・安全柵と看板設置などを検討する。

5選出馬はあるのか

町長 5期目に挑戦する

石井 町長の5選出馬はあるのか。

町長 これまでの取り組みを活かし、様々な施策を展開し、町民とともに五城目町のさらなる飛躍と発展を目指し、5期目の町政運営に挑戦する。

石井 出馬表明が遅れたのは出馬にあたって迷いがあったのか。

町長 4期16年間を振り返り、新たな視点による町政発展に向けての考え方などについて熟慮したことにより、このタイミングとなった。

石井 5期目出馬にあたって公約は。

町長 人が輝き、まちが輝き、未来が輝く五城目を目標とするイメージで、各分野のこれまでの取り組みが実を結び、大きく輝けるまちづくりを目指していく。

石井 4期16年その自己評価は。

あなたにかわって聞きました 一般質問



石井 光雅

町長 4期16年間、豊かで暮らしやすい五城目町の構築に向けて、座右の銘である「真実一路」を胸に、全身全霊取り組みで来た。

五城目第一中学校の改築、デマンド型乗合タクシーの運行、五城目小学校の移転改築、地域活性化支援センターのオープンなど、計画に掲げた目標は概ね達成できたものと考えている。

石井 今、町では若手への待望論が聞かれる。若手へのパトナタッチは考えていなかったのか。

町長 自分自身の政治信条に基づき、引き続き5期目の町政運営に当たりたいと考えている。

石井 従業員で五城目町の人は何人か。

町長 マーレ五城目工場における従業員数は66人で、うち五城目町の町民は38人と伺っている。

石井 マーレ社の工場閉鎖の発表から3ヶ月が立ち、その後マーレ社と話し合いをもったのか。



工場閉鎖するマーレ社

町長 主に従業員の転勤や再就職に関すること、空き工場の今後の見通しについて、県も加わりながら3回情報交換を行った。

石井 どのような対応をしているのか。

町長 転勤希望者が少ないことから、離職者への支援については、ハローワークと県や町も連携して取り組むことをマーレ社と確認している。閉鎖による影響を最小限に抑えるため、従業員の雇用確保を最優先とし、空き工場の有効活用が図られるよう、マーレ社と連絡を密にしながら対応していく。

石井 この事業を広く住民に知ってもらう手立ては。

町長 この事業には馬場目地区の町内会長全員が参加している。町内会長の立場として取り組み状況を、各町内会において話題にできるように配慮して進めている。

地区全体で取り組みを共有するため「薬師山だより」を月1回、全戸を対象に発行している。また馬場目ミートイニングを必要に応じて開催する。

コミュニティ生活圏形成事業の進捗は

石井 事業の進捗はどうか。何年までの事業なのか。

町長 現時点では、地域住民を主体とした交通部会、営農部会、GB部会、カフェ部会の4つの部会を設置して、現状の課題を整理し、今後の取り組みなどについて話し合っている。

県の直接的な支援は令和3年度までである。県からは、ランドデザインの策定を2年度までに、3年度から事業実施に取り組んでほしいとされている。

町の特産品の開発は、育成・宣伝は

町長 今後も新たな特産品を探求し販売促進を図りたい

農産物の特産品は何か

斎藤 どのように開発し、どのように宣伝するのか。

町長 平成19年に特産品開発のため、JA関係者、県などを交え「五城目町農業活性化会議」を設置し、平成20年に「キイチゴ研究会」、「酒米研究会」を発足した。「キイチゴ研究会」は秋田県立大学との産学共同研究をスタートし商品化を進め、お菓子、ジャム、パウンドケーキ、キャンディーなども発売している。「酒米研究会」では町農業者を中心に、作付け品種が当初2品種から4品種となり、面積は4・5ヘクタールから24・8ヘクタールとなった。

あなたにかわって聞きました 一般質問



斎藤 晋

今後は県・JAの指導を仰ぎ、栽培技術の向上に努める。又、JAの推奨品種・自然薯・シドケなども探索していく。

農産物以外の特産品は何か

斎藤 どのように開発し、どのように宣伝するのか。

町長 農産物以外の特産品として、だまこ鍋・清酒・菓子・家具・木工品などを町内外、県内外にPRしている。ふるさと五城目会の協力を得て、千代田区さくらフェスティバルで宣伝をしている。また、全国町村会主催の「町イチ！村イチ！」に参加し、販路の拡大に努めている。県内では、観光物産協会と連携し「五城目町職人物産展」として、アトリオンや朝市ふれあい館に出店し、販売促進を図っている。今後も様々な機会を通じて、特産品の販売促進を図りたい。



職人の技が光る木工品



大切な郷土料理だまこ鍋

PCR検査に対する補助金を出すか

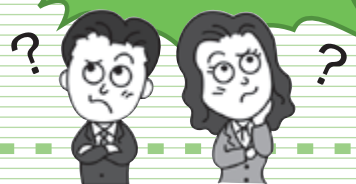
町長 検査機関の受入れ体制を考慮する必要があるもので、県全体で対応すべきであり、検査体制の充実について県へ要望しているところである。

町民の健康を守るため、今後も引き続き県へ要望し、感染状況、医療現場の状況を勘案しながら必要であれば検査を実施している医療機関、保険事業団と協議するなど検討していきたい。

その他に

- 1985年に制定した町の「木」「花」「鳥」について
- 新型コロナウイルス防止対策について
- 朝市について
- ①朝市の復興政策は
- ②朝市の整理について
- ③生活朝市か観光朝市かについて質問しました。

あれ



なんとなくだったべが!

令和元年12月定例会一般質問より

シリーズ ついせき

108

もりやまこども園 給食費の全額無償化を

町長 様々な角度から検討する

あなたにかわって

聞きました

一般質問



工藤 政彦

町長 現在、主食分を徴収している園児数は、もりやまこども園・大川分園を合わせて、115名の方がいる。
今年度の主食代決算の見込み額は、115万8千円となっている。
子育て世代の経済的負担の軽減に向け、様々な角度から検討したい。

小学校新校舎完成、 町長の想いは

工藤 幾度となる説明会やワークショップを重ね町民、保護者の考えが随所に生かされた喜びもひとしおの校舎である。町長の想いは、

町長 地域との交流の場として憩いと賑わいの空間となり、気軽に立ち寄り親しみのある学舎として「地域と共にある学校」、子供たちが夢の実現に向かって頑張り、将来を担う健やかな成長を強く願うものである。

工藤 来年1月から新校舎で授業が始まるが、新しい校舎での授業開始に伴い教育ビジョンを聞きたい。

教育長 子供と地域が共に響き合う教育を目指した地域に



主食分の補助で全額無償化を

工藤 昨年10月から幼児教育・保育の無償化が始まったことに伴い、副食費が無償化の対象外となったが、県の「すこやか子育て支援制度」と町の単独補助(すこやか以外の部分)により副食費を全額補助している。
現在は保護者負担となっている主食費分も補助し、給食費を全額無償化とすることを提案する。

副食(おかず) 助成対象

主食(ごはん・パン) 保護者負担

問

洪水ハザードマップ更新は、宅地浸水域をしつかりと反映させ、実情に見合ったものに。

1年前の答弁 新しいハザードマップは来年度末までに完成の予定で、近年の実態を踏まえたものにする。

現在 新しいハザードマップは、防災学習記事を盛り込んだ「五城目町防災マップ」として現在作成中である。この中に、洪水や土砂災害などのハザードマップが織り込まれる予定となっている。
洪水については令和2年7月に県から示された指定河川馬場目川の新しい浸水想定区域(1000年に1度程度の降雨に対応した)が反映される。その他、近年の最大の洪水被害となった、平成30年5月豪雨時の浸水実績の区域も掲載する予定となっている。



災害対応に役立つハザードマップを

問

各地区公民館敷地内の安全管理の徹底を。

1年前の答弁 指摘された件については、危険回避のため、早急に地区公民館長を交え地区町内会長と協議を行い、安全確保に向けて対応する。

現在 地区公民館長などと協議し、緊急性の高い件については撤去・修繕により、対応済である。その他については、点検回数を増やして安全確保に努めている。

問

職員採用を控えた時期があった。世代間不均衡解消のため、中途採用の年齢拡充と実施を。

1年前の答弁 第4次職員定員適正化計画において、採用・登用方法を検討のうえ、明確にしたい。

現在 30歳代の職員分布にバラツキがあることから、第4次職員定員適正化計画において、経験者採用等によるこの年齢層の職員確保の必要性を基本的考え方とし、定年延長制度や再任用制度の状況を見極めながら、経験者採用の実施に向け、引き続き採用・登用方法の検討を行っている。

問

人口減少に歯止めをかけるためにも、若者が働ける場の確保に全力を。

1年前の答弁 秋田市内の企業2社より町への事業進出の可能性について話がある。まだ方向性は定まっていない。今後とも協議を重ね、良い進捗が図られるよう努めていく。

現在 企業2社のうち1社については、今年11月に秋田市への事業進出が決定。残る1社については、コロナ禍の影響を受けて事業活動が停滞している状況で、引き続き誘致に向けて事業者働きかけていく。

朝市振興を

工藤 「朝ぷら」などの開催により朝市の賑わいに大きく貢献しているが、最近、定期市の出店者の高齢化が進み出店数の減少が目立つ。一箇所に



出店者が少なく閑散としている朝市会場

工藤 「イベント広場」に屋根を設置するなど雨天時でも出店しやすくし、朝市の開催日以外の平日や祝祭日でも関係なくいつでも出店できないか。出店者についても制限なく誰でも出店できる「フリーマーケット」的な場として提供するのはどうか。

町長 イベント広場において、出店したいという要望が多数ある場合は、広場の活用について検討していく。



「イベント広場」の活用に期待

集合させて出店することで、お客様も買いやすく、また賑やかになると思うが。

町長 アンケート調査の結果現在の出店場所を移動したくない意向。出店場所の移動を伴わない朝市の賑わいを検討する。

よぶ
きてけだな



「色んな人と仕事が集まる町へ」

○いつ、どんなきつかけで五城目へ

2016年の春、「朝市Plus」にふら〜と遊びに来たのが、五城目町との出会いだったと思います。「朝市Plus」がきっかけで職人の町 五城目に関心を持ち2020年6月に、秋田市から移住しました。



革製品を扱う「すずなり」のお店

○五城目町で生活していて感じるこ



小松田靖之さん、裕美子さん(昭辰町)

おじいちゃんとおばあちゃんがかく元気だなぁって思います。その姿を見ていると、僕も負けてられないな〜って。それと、人と人との心の距離がとても近いように感じました。良い意味で人の営みに触れているな〜と感じる時が多くなりました。

○これからに向けて

「革」の魅力をどこまで引き出せるのか。これからも挑戦していきたいと思います。「すずなり」は、たくさんの方の手で作ったお店なので、1日でも長く続けられるようにがんばりたい。それと、これから五城目町で何かにチャレンジしたいと考えている人の力になれたらと思います。もっというんな人が集まってもっといろんな仕事が集まる町になればうれしい。

(松浦 真)

がんばってます

かけがえのない校舎



五城目小学校6年
石井 瑛都さん
(小野台)

6年間の思い出がびっしりつまっているこの校舎とお別れする日が近づいてきました。

振り返ってみると、日々の学校の様子が浮かんできます。すっかり覚えようと学習に励んだ授業。友達を少しずつ増やしていった休み時間。どれもが、ぼくに大切な宝物や財産となりました。

また、スポーツを2年間続けてこれたことも、多くの財産です。くじけそうな時、仲間や家族に支えられ、続けることができました。そして、この校舎のやさしい木のぬくもりで安心してプレーすることができたと思います。ぼくたち6年生は、修学旅行に行くことができます。



(工藤 途子)

編集
後記



今号も無事議会広報誌の編集を終え、皆様の元へと届けることができ安堵しております。取材にご協力いただいた町民の皆様にも改めて感謝申し上げます。

秋田県の新ブランド米である秋系821の名称が「サキホコレ」に決定したという嬉しいニュースが届きました。五城目町でも栽培がスタートし、今後皆様の食卓に並ぶ日も近いと思います。

5年前に大阪から五城目町に家族で移住し一番感じたことは「ご飯と水が美味しい。」ということです。この美味しさも森山や森林の保全に関わる方々、農家として自然と向き合っている生産者の方々の努力の結晶であると実感します。

コロナにより行事中止などで当たり前が崩れていく日々だからこそ、目の前の日常と、美味しい食事、それを生み出す生産者の皆様の愛情を丁寧に味わいたいと思います。

松浦 真 記

